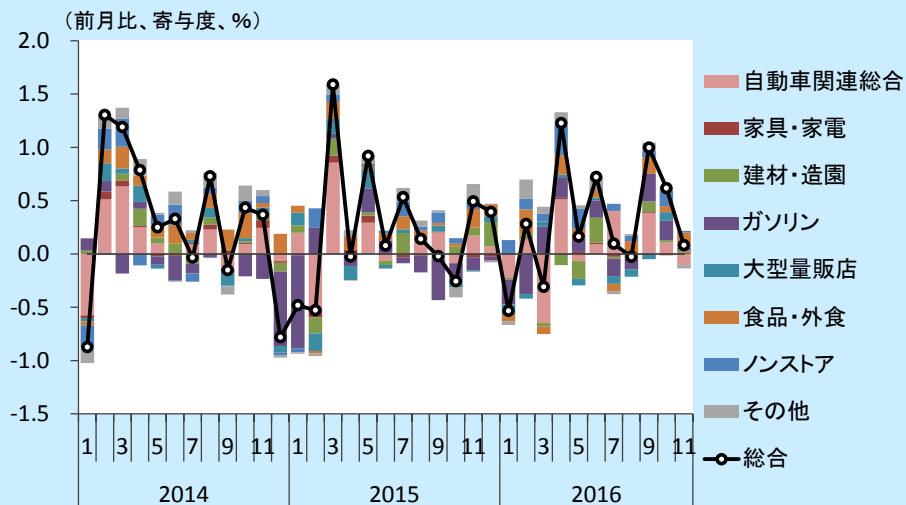


米国：小売売上高（2016年11月）

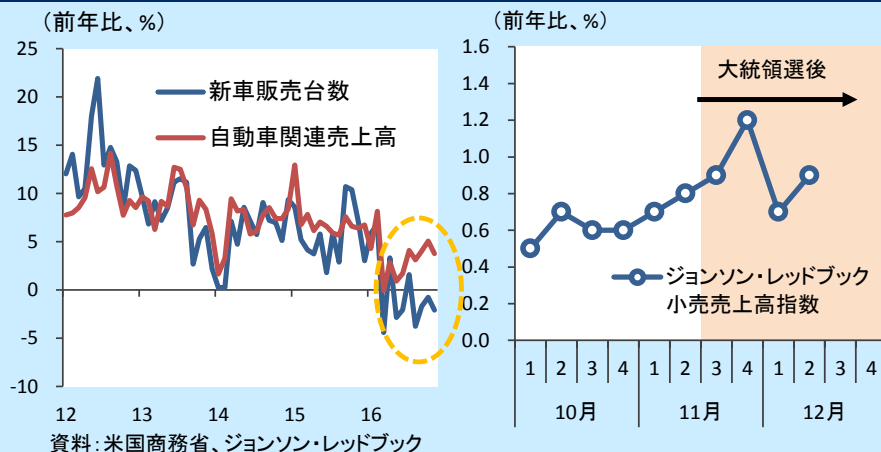
— 米大統領選後も、消費は拡大基調が継続 —

MRI Daily Economic Points
December 16, 2016

図表1 小売売上高 項目別 寄与度



図表2 新車販売台数・売上高 図表3 週間小売売上高指数



評価ポイント

今回の結果

- 16年11月の米小売売上高(12/14日公表)は、前月比+0.1%と前月(同+0.6%)から伸びが鈍化したものの、3ヶ月連続で増加。基調を示す自動車、ガソリン、建材を除くコア小売売上高も、同+0.2%の増加となった(図表1)。
- 内訳をみると、主要13品目のうち9品目が前月から増加。外食(同+0.8%)や、食品飲料(同+0.4%)に加え、住宅販売の増加を背景に家具(同+0.7%)、建材・造園(同+0.3%)が増加した。
- 一方、自動車関連(同▲0.5%)は6ヶ月ぶりに減少。新車販売台数を見ても、前年比で減少に転じている(図表2)。また、これまで高い伸びを続けてきたノンストア(同+0.1%)も拡大ペースが大幅に減速した。

基調判断と今後の流れ

- 11月の小売売上高は、9、10月に高い伸びが続いた反動もあって伸びが鈍化したが、消費は拡大基調を維持している。背景には、①良好な雇用環境や、②消費者マインドの改善がある。
- トランプ氏が次期大統領に決定した11月後半以降、株高による資産効果や、先行きの減税期待などから、消費が押し上げられた可能性がある(図表3)。
- 先行きも、消費の拡大基調が続くと見込む。また、トランプ氏の公約どおり経済政策が行われる場合、短期的には、所得税減税による可処分所得の増加により、消費の拡大が加速するだろう。
- 下振れ要因は、①トランプ新政権の経済政策が期待したほど進展せず、消費者マインドが悪化することや、②連邦準備制度理事会(FRB)が市場予想を上回るペースで利上げを行った場合、長期金利の急激な上昇によって耐久財の消費が抑制されること、などが挙げられる。